

2004 年度
GNC 活動報告

平成 17 年 3 月



2004 年度GNCモンゴル植林ツアー概要報告

実施日程:2004 年 5 月 8 日~5 月 15 日

ツアー参加者:大西 郁、五十嵐亜紀、高橋京子、森泉恵子、

同行講師:松橋希世貴 同行通訳:チョイジル バーサンダツシュ、アリマー・ゾリグ

GNCモンゴルスタッフ: ツグトサイハン(責任者)、ボルドバヤル GNC日本スタッフ:宮木いっぺい(代表) 矢野明子(事務局)

<苗木畑での作業> 5月9日・5月10日

参加者

:日本からのツアー参加者4名、第18学校生徒32名、同行教師1名

:GNC9名 日本人スタッフ2名、現地スタッフ7名(畑作業員含む)同行通訳2名

<枯れ草の除去作業>

昨年の5月は、SARSの影響で、日本からのツアーは中止となり、現地スタッフ、学生だけの手によってアカマツ5000本を植樹しました。植樹されたアカマツの苗はモンゴルの厳しい冬をしっかりと生き抜いておおよそ8割が活着していました。越冬のために日本ではわらなどで覆うのですが、モンゴルでは自然の枯れ草がしっかりとその役割を果たしていました。今回はこれからの季節、苗にしっかりと太陽の恵みを与えるため、覆いかぶさっていた枯れ草を除去する作業をおこないました。待ち構えていたように枯れ草の中から青々としたマツの苗木が次々に現れました。アカマツの苗木栽培に関して路地栽培で十分活着できるという結果がでましたので、今後は、早急に備えてスプリンクラーなどの灌漑施設を整えて、徐々にその規模を拡大していく予定です。



<苗木畑周囲に防風のためのポプラ植樹>

同様に延期となっていました GNC 苗木畑(1ha)での第 18 学校の課外授業の一貫としての防風のためのポプラの苗木植樹も実施することができました。日本語クラス 7 年生(14、15 歳) 32 名が参加して一本一本心を込めて植えてくれました。10 数年後、彼らが立派な社会人となるころ、これらの苗木も見上げるほどに成長し、しっかりと防風林としての役割を果たしてしてくれることでしょう。来年の課外授業ではマツの苗木植樹も考えています。



<モデル農場での第 18 学校課外授業> 5 月 10 日

参加者

: 日本からのツアー参加者 4 名、同行講師松橋希世貴さん、第 18 学校生徒 32 名、同行教師 1 名

: GNC 4 名 日本人スタッフ 2 名、現地スタッフ 2 名 同行通訳 2 名

2002 年 9 月、第 18 学校訪問の際に、エンフバット校長、GNC モンゴル代表ツォゴーさんらとの話し合いの中で、「モデル農場での課外授業」をおこなってみたいかどうか、という話が持ち上がり、また、同行していた大学生 森泉恵子さんからも、是非、子供たちに日本の様々な環境問題の実情を伝えてみたいとの要望もありました。

そして、今年、遂に「第 1 回モデル農場における課外授業」が実現することになりました。

今回は、森泉恵子さんと高橋京子さんのお二人には「日本の公害問題について一水俣病と四日市ぜんそく」の特別授業を、また、青森県車力村の農業専門家 松橋希世貴さんには「寒冷、乾燥・強風地である車力村での農業と植林」について写真を見ながらわかりやすくお話していただきました。生徒たちは、とても真剣に耳を傾けていました。現地責任者のツォゴーさんも、農場内を案内した際、彼らの食い入るような熱心な眼差しにとっても感動したと話していました。来年以降も、様々な工夫を重ねながら引き続き実施していきたいと考えています。



大型バスで32名の生徒たちが農場へ



引率の英語の先生



みんな熱心に聴いています



恵子さん&京子さんの特別授業



車力村・松橋さんのお話



GNCモンゴルスタッフのツォゴーさん&ボルドさんの自己紹介！



松橋さんに車力村についての質問



配られた資料「日本の公害のお話」を熱心に読む生徒たち



ツォゴーさんによる農場の案内



<セレンゲ県 森林伐採、火災跡地での植林スタート> 5月10日~11日(ダルハン泊)

参加者

: 日本からのツアー参加者 4 名、現地 専門家チーム 10 名

同行専門家 日本人 1 名、モンゴル人 1 名、GNC スタッフ 2 名、通訳 2 名

GNC の砂漠化防止、緑化プロジェクトの新たな事業がセレンゲ県**トジンナルス**(Tujiin nars・国立公園に指定されています。)でスタートしました。今年は10ha、アカマツ 30,000 本の植樹&管理契約となります。一口に緑化といっても、その場限りの植林では全く意味がなく、単なる自己満足に終わってしまいます。特にモンゴル国のように厳しい条件下では長い年月をかけて森林を蘇らせるんだ！という森林再生に対する強い情熱と使命感に基づいた専門家チームによる綿密な計画と管理体制が必要です。今年から GNC が長期にわたり関わっていくことになったセレンゲ県にある森林動物センター(ジャムスランセンター長)はその意味においてとても信頼できるパートナーといえます。GNC の今後の計画としては、2004 年 9 月(愛知万博との合同企画ツアー)、2005 年 5 月(GNC 第9回緑援隊)に関して計 20ha、60,000 本の植林を既に決定しています。



伐採と火災の跡地



5年前に植樹されたというアカマツ(日本に比べ非常に成長が遅い)



トジンナルス(モンゴル Selenge 県 Altanbulag 郡 Tujiin nars 地域)

地図上**緑の部分**は残存した森林エリア、**ピンク**が火災、伐採被災跡地、**青いライン**が現在植林を進めているエリア。



森林動物センター長.ジャムスランさん



今後森林再生を目指し、GNCは精一杯協力
していくことを約束・



現場で働いている専門家のみなさん



専門家の指導を受けながら
二人ペアとなってアカマツの苗を丁寧に植樹



植樹するのはこんなに小さな苗木



GNC 植林地の現状

＜ハンオール地区区役所との合同街路樹植樹＞ 5月12日

参加者:

日本からのツアー参加者 4名、同行専門家 日本人 1名、モンゴル人 1名、エコアジア大学生 7名

ハンオール地区 街路樹植樹専門家 2名 副区長、その他作業担当の方

:GNCスタッフ日本人 2名、モンゴルスタッフ 1名 同行通訳 2名

ハンオール地区では、地区内での緑化プロジェクトがスタートして、住民の憩いの場となる公園の造成と街路樹の充実とに力をいれています。今回GNCでは、街路樹のための榆の苗木 3250本を寄付しました。そして、その一部を合流してくれたエコアジア大学の学生たちと、たまたま、下校途中のバスの中から見かけて飛び入りで参加してくれた第18学校の生徒たちと共に記念植樹しました。GNCでは今後も、この地区の住民の生活空間をより充実させるための自然環境保全緑化事業に協力していきます。



公園造成の計画



<モンゴル国立大学エコロジー教育センター訪問> 5月13日

—セミナー & 植物園開設予定地での記念植樹—

モンゴル国立大学エコロジー教育センターはモンゴル国での自然環境分野のより優れた専門家を早期から育成するため、全国から選抜された高校生の集まる教育機関です。今回、初めて日本からの同行講師 松橋希世貴氏に「日本の寒冷・乾燥・強風地・車力村における農業と植林」をテーマに講演していただきました。また、ツアー参加者の二人の大学生 森泉恵子さんと高橋京子さんにも「日本はどのように公害問題に取り組んできたか」水俣病の事例をあげて、発表してもらいました。センター側からはソノダグバ氏に「モンゴルの森林地帯の実情」を詳細なデータを示しながら講義していただきました。講演後、参加したモンゴルの大学生たちからは次々に質問があり、とても活発なセミナーとなりました。今後も、継続して、自然環境だけに限らず、そこから派生する国境を越えて起こりうる様々な問題をテーマに、積極的に話し合っていきたいと考えています





テレビの取材を受けるエコロジー教育センター長バザルドルジ先生



植物園予定地内を視察



植物園の開設に向けて
願いを込めて 記念植樹

**(なお、この日の模様はモンゴル中央テレビ、チャンネル 25TV のニュースで全国に放映
されました。)**

<全体交流会> 5月13日 ビシレルトホテルにて

今年は予想をはるかに越えて60名あまりの方々が出席してくれました。(第18学校の生徒32名は全員出席でした!) 皆さんのおかげですばらしいツアーになりました。本当にありがとうございました。この出会いを大切に、また、来年も会いましょう!



ツアー参加者の感想 2004年

今年もGNC緑援隊に、日モ両国の新たな若者たちが参加してくれました。街路樹の植樹、農場での課外授業や防風林の植樹、合宿を通して言葉の壁を越え、参加した彼らひとりひとりに貴重な体験と思い出を残していったことでしょう。

大西 郁 (モンゴル名) オチロー

まず最初に「どこでも良かった。モンゴルでなくても、違うアジアの国でも、南米でもアフリカの国もある国でも。」そんな感じで「モンゴル」という国を選んだと言っておきたい。だから出発当日まで、いつもと何ら気持ちは変わらなかった。「きっと二度と来ることは無い土地で、植林、植樹をして、ずっと後の思い出にしたい。」というだけだった。しかし、結果的に「モンゴル」というところは、今までの何よりも僕の中で「衝撃的」なものとなったような気がする。それは、モンゴルの空が綺麗だったから?



草原が途方も無く広がっていたから？

いくつもの星や流れ星を見れたから？

初めて訪れた場所だから？きっとそういう理由ではないように思える。きっと、そこであった人々によって、そんな気持ちにさせてくれたような気がする。同じ人間と思えないほど、僕等には持っていないものを沢山もっていた。いっぱい「F」のような・・・。「FINE」「FAIR」「FILL」「FUTURE」なにより、「FRIEND」だ。「自分の為の植林」という行為よりも、「FRIEND の為の植林。彼らの笑い顔の為の植林」という気持ちになれた。もし、今回のツアーが「観光」や「交流無し」のツアーだったとしたら、絶対にこのような気持ちにはなれなかったと断言できる。ツォギーさんたち、第18学校の生徒たち、エコアジアの学生のお陰だと思う。彼等と知り合えて、友達になれたことが何よりの、一番の収穫だった。最後に、いっぺいさん・矢野さん、このような機会を与えてくれまして、本当にありがとうございました。

五十嵐 亜紀 (モンゴル名) オユンナ

ツアーに参加する前は正直不安でしたが、いっぺいさん、矢野さんを始め、参加メンバーに大変恵まれ想像以上に楽しく過ごせました。

初めて訪れるモンゴルは私の幼い時からの憧れの国でした。想像通りの広大な大地と真っ青でおおきな空。そして夜には満点の星。そのシンプルさが本当に美しいと思いました。しかし一方で、モンゴルの自然破壊が近年著しいとTVで見る機会が多くなりました。共存すべき自然を人間が生きてゆく為またそれ以上に豊かさを求めるが為に犠牲にし、結果自分の首も絞めてしまう。自然とバランスを保つことは簡単なことではありません。今回のツアーではモンゴルの学生と一緒に植林をしました。自分で植えた木には少なくとも愛情を感じるものです。学生たちにそんな気持ちが生まれたらきっと自然を守ろうという興味・行動につながり、将来のモンゴルの美しく豊かな自然への大きな力になるといいなと願いました。

充実した8日間のツアーを終え、疲れを感じるどころかモンゴルの大地や人々の温かい心と笑顔に触れ、とても元気になって帰国しました。そして私が出会ったモンゴルの自然と人々の笑顔を失わないように、小さなことでも自分ができる範囲でサポートしてゆきたいと思いました。



高橋京子（モンゴル名）スレン

日本に帰ってきて一週間が経ちますが、モンゴルのことばかり考えています。

出発前は、モンゴルで具合が悪くならないか、みんなと仲良くできるか、ご飯が食べられなかったらどうしよう(無駄な心配でした)など たくさんの不安を抱えていましたが、そんな心配は吹っ飛び、夢のような素晴らしい一週間を過ごすことができました。今回のツアーの中で、「日本の公害」についてのレクチャーの場をいただきました。準備段階では、一番伝えたいことをどのようにしたらうまく伝わるか悩んだり、四苦八苦でしたが、自分が普段勉強していることや考えていることを発表するいい機会をいただき、うれしかったです。通訳のゾリゴーさん、ボジさんをはじめみなさんのご協力をいただきありがとうございました。



また今回の植林体験は自分にとって大変有意義なものでした。火災跡地や森林伐採された森を見たり、植林が成功している場所を見たり、正しい木の植え方を教えていただき、防風林の苗木や街路樹などの植林をしました。

セレンゲに行き、現地で植林されている方々にお会いした時はとてもうれしかったです。「日本で植林を支援している私たちが、現地へ向かい、一緒に植林をし、木が育っているのを実際に見て心から喜んでいるということが伝わってうれしい」という矢野さんの言葉が心に響きました。環境を考えると、人と人とのつながり(お互い信頼しあうこと、協力、感謝の気持ちなど…)がとても重要なのだということを感じました。

今回のツアーでは、発表、植林以外にもたくさんの貴重な体験をすることができました。モンゴルの大草原で、家畜の群があって、ゲルがあって…という風景を見た時は感激しました。ゲルに泊まったり、馬に乗ったり、満天の星空を見て、感動しました。モンゴルの文化に触れることもできました。そして、第18学校の生徒さん、エコアジア大学の生徒さんとの交流は、何より楽しかったです。

今回のツアーで、モンゴルと日本の、たくさんの方々と仲良くなれて、とてもうれしく思います。ツアーが終わり、また別々の生活を送ることになりますが、常にみなさんとつながってほしいと思います。そして、このネットワークを通じて、また新しい何かが生まれると信じています。みなさん、これからもよろしくお祈りします。

最後に、GNCスタッフのいっぺいさん、矢野さん、恵ちゃんをはじめ お世話になったみなさんにお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

森泉恵子（モンゴル名）ツェツェグ



私がモンゴルを訪れるのも気が付けばもう3度目。しかし今回のモンゴルツアーは1回目2回目とは少し違い、今まではGNCのスタッフの調査に同行させてもらうという形での訪問でしたが、今回はツアー参加者として参加しました。そして、今回のツアーでの企画はGNCにとっても新しい試みのものがほとんどでした。つまり、今回のツアーでの企画はそのほとんどが、私が同行させてもらった2回の調査旅行で提案され、実現したものであったのです。新しい提案が生まれ、実現していく様子を見ているのは本当に興味深く、またとても勉強になりました。そして、私がGNCと関わり始めてから今までの約3年が一つにつながり意味のあるものになったのだと実感でき、また自分自身も成長したのだな～と感じました。そして、2年前の初モンゴル訪問の時に私が提案

した「環境教育（環境問題に関する特別授業を行うこと）」が今回実現しました。そして、本番も思っていた以上の成果を上げ大成功したと思っています。この経験は、本当に良い経験になり、少し自信も付きました。そして、今回のモンゴル訪問での一番の成果は、“人との出会い”です。第18学校の子供達、エコアジア大学のみんな！本当に本当にみんな優しくていい人ばかり！！彼らとの出会いが、私たちのモンゴル滞在を何万倍も何億倍も楽しくて、そして意味のあるものにしてくれました。

そして、出会いはモンゴルの人々だけではありません。ツアーと一緒に参加した日本人メンバー、そして通訳として同行したモンゴル留学生の二人との出会いも私にとってかけがえのないものとなりました。（どうしてみんなこんなにいい人たちばかりなんだろう。）これらの出会いは、またいつか違う場所で思わぬ良い作用をもたらしてくれるんじゃないか・・・なぜだかわからないけどそう感じました。

今回のモンゴル訪問は、今までにないくらい全てがうまくいき（天候も、体調も）、しかも出発前に考えていたもの以上の（想像できなかったくらい）大きな大きな成果を出せたと思います。そして、これからまた新たな何かが起こると予感しました。

モンゴルで見た全て、感じた全てを私は一生忘れません。本当にいい旅でした。

松橋希世貴（同行講師、車力村農業専門家）

今回、GNC植林ツアーに参加させていただき、又日本から若いスタッフの人達と一緒にモンゴルツアーに出発！！

出発前、自分の仕事が忙しく連休も返上でやっと出発準備OK、でも今回私に与えられたことは、第18学校とモンゴル国立大学エコロジー教育センターでの車力村の植林の現況報告、資料が間に合わず出発日に成田空港で車力ツアーの人達から受け取ることになってしまいました。

人前で話す経験のない私のためますます不安でした。（結果は的中、頭の中は真っ白でした。アルコールが入った時は別なのに（自分なりの判断））

今までと違い初めての若い人達との訪問、大西郁さん、五十嵐亜紀さん、高橋京子さん、森泉恵子さん、いい経験の中で楽しい思い出を沢山作ることができました。また、ボジさん、ゾリグさん楽しい毎日でした。

特にダルハンでは夜中なのにボジさんのお兄さん家族そして友達とウォッカで「トクトイー」本当にありがとう。

こうしたふれあいの中で自分はモンゴルの何が好きで来るのか自分なりに少し見えてきたような気がします。

帰国前の夜のパーティでは第18学校、エコアジア大学の学生、そして今回の関係者等々楽しい交流ができました。帰りの別れがつらくて涙している生徒達、今度また会うことを約束しました。今回ご一緒させていただいた皆さんと沢山の友達とモンゴルで再び会えることを願っています。

（車力から夜空の星に願う！）

本当にありがとうございました。

本州最北端 車力村より



第 5 回 NGO 合同研究 & 活動報告会

日時: 2005年3月12日(土) 13:30~16:30

会場: 地球環境パートナーシップオフィス・エポ会議室

プログラム: 進行 地球緑化クラブ 福田玲子

1. 開会挨拶

2. 基調講演

テーマ「内モンゴル草原の請負制と植生の変化・沙漠化」

講演者: サイシヤラト(賽喜雅拉図)氏

・内モンゴル師範大学地理学院助教授

・東京学芸大学客員研究員

3. 各団体報告 & 質疑応答

●GNC

発表者: (代表) 宮木いっぺいさん

「モンゴル国での実践 2004年愛・地球博モンゴル国際植樹祭実施報告」

●地球緑化クラブ

発表者: (代表) 原鋭次郎さん

「2005年、地球緑化クラブの目指す緑化スタイル」

●内モンゴル沙漠化防止植林の会

発表者: (代表) セルゲレンさん

「中国内モンゴル自治区の沙漠化防止に取り組む植林団体に関する調査報告」

●FOE Japan

発表者: (事務局) 和田鈴子さん

「FOE Japan 活動状況について」

4. 意見交換

5. 閉会挨拶

終了後 懇親会

主催: 内モンゴル沙漠化防止植林の会・沙漠緑化団体 地球緑化クラブ・GNC (Global Network for Coexistence)



講演者:サイシヤラト(賽喜雅拉図)氏
内モンゴル師範大学地理学院助教・東京学芸大学客員研究員



沙漠緑化団体 地球緑化クラブ
代表:原 鋭次郎氏



内モンゴル沙漠化防止植林の会
代表 B. セルゲレン氏



GNC(Global Network for
Coexistence)
代表 宮木いっぺい氏



FOE Japan
事務局 和田鈴子氏



内モンゴルホルテンチン沙漠での「HONDA 喜びの森」で植林活動されている皆さんも参加され、新たな情報交換が出来ました。

会終了後は 会場付近の居酒屋で、食べて飲んで、一年ぶりに再会の楽しいひと時を過ごしました